

# バストス週報

第百九十九号  
昭和三十一年  
二月廿四日  
発行

DIRETOR  
KOITI MORI

REDATOR  
SHION ODA

RUA PRES  
VARGAS 188  
C. P. 112

BASTOS  
C. P.

ANUAL  
100\$-

## 蒿 芭

江原 真之

「物言わざるは腹ふくくる業」とか、お互に腹藏なく話合ひ、納得が行く。その仕事も煩調に進む事は、今茲に事新しく速べる道もありませぬまい。

ナントス上陸後、私は或る人に次の様に言われまして、「当ララジルに於ける養蚕は此処独自の環境に順応した、やり方があるのですから、貴方の日本式な技術を押しつける様な事は、異々も注意してやめていたゞき要いし」

私はその時軽く合点した丈で聞き流して居たのですが、之れが、その後の仕事に一番重要な問題となつて居る事に気が付いたのは当地在住后一月とばかりませぬでした。

「経験」これは確かに重要な事ですが、しかし独善的な考え方から割り出したものは普遍性を欠き、寧ろ自己満足の成る詞の様にすら感じられる場合が多いのではないでしようか？ 私は廿年ララジルの養蚕業に従事してきた、言い換えれば、私はあらゆる経験を經てきたという自己過剰意識を指すのです。

私は決して「経験」という貴重な知識を否定しようとはせぬ、例へば臨床医が長い臨床回数により名匠としての実績をあげようように、自らの自信を高め、より以上の知識を得る事は勿論でありませぬ。然しその名匠も基礎学的裏付けと絶えざる研究意欲があつたればこそ彼岸に到達し得たのであります。自己批判の無い経験は全然進歩を伴ひませぬ。

蚕糸学が農学の広い分野で特に独立体系を採つて居るのは、動物学、植物学、地質学、土壌学、肥料学、物理化学、気象学等の立体綜合を必要とする独自性を考へられたの事と思ひます。勿論他の一般農業部分に於てもそうですが特に蚕糸業に於ては生物を扱ひ居る以上、科学性と実践力を重視しては決して成果を望み得ないと思ひます。言い換へれば、智行二者撰一的世界に生きてこそ其結果を期し得るのであります。所が学問の基礎原理は如何なる場所、如何なる環境を問はず絶対不変の物でありまして、アラジ

ALFAIATARIA IMPERIAL



五七ネン型というのは君これだよ  
マルヤマ製でね  
丸山洋服店

WAKAMOTO

## わかもと



ケンコウと名  
朝夕教粒のわかもと服用で  
老いてますますよかん  
世のお年寄衆よ  
しかもわづかな金で  
健康は金で買える  
ケンコウと名  
ケンコウと名

製造元東京わかもと製薬株式会社  
伯國代理店 パリスタ製薬 会社  
社長 中久保 益太郎  
C. P. 三六五五  
FINE 三二四四四五

ルに柔たからといて急に蚕児が高温多湿や多火の温度編差に堪えられぬというわけには参りませぬ。又之れに對する遺位因子の突然変異も急には望まれません。亦特殊な飼育技術も、どうやらなさそうです。即ち私の氣附いた点は、たゞ古き唯一の誇りとしを盲目的経験意識の基成が墮勢的に慣習を追い追めて居るとしか思へないこととす。之れは決して真の意味の経験として誇り得る問題ではありませぬ。私は敢えてアラジルの独自の蚕糸技術といつた不可思議なものに全然存在しないと言ひます。

世界の養蚕国は日本を始めとして中国、フランス、イタリー、印度、ペル、進くはビルマ、アフリカすら學者、



技術者の派遣交換を要請し、ユネスコ等  
 其の中核となり、学問的裏附により正  
 断の努力を排して居るの故です。  
 扱て過去十数年合成化学繊維は正に波  
 瀾の様な勢で進歩を遂げ、繊維業界の王  
 座にのし上り人とし、絹は重要な消費部  
 門を次々と奪われ、大打撃を受けて今日  
 に到つたことは周知の通りであります。  
 然しカローザ博士の偉業も天然糸固有  
 の特性とも云うべき、触感、視感、聴感  
 衛生、保温の分野には未だしの感があり  
 人間の美的素養の諒解点の變動が起  
 らない限り近づくを得ない、他次元の世界を  
 保つて来て居ります。

即ち現在北米にて試織されて居るナイ  
 ロンとの混織、毛紡との混紡はその一面  
 を物語るのに充分でありましょう。とは  
 いえ安価で良質の繊維を望むは万人の共  
 通性と申しおしよるか。絹糸顧客の大層  
 も御他聞に洩れず、コストの面で質的に  
 妥協できる限りの範囲は合成繊維に鞍替  
 えざるを得なかつた事は無理からぬこ  
 とでしよ。

終戦後のインフレと気分的快樂及勤の  
 余波は必要以上に華美に走り絹糸の必要  
 性も上昇線を画くに到つたのであります。  
 日本は戦争で受け打撃から一刻も早  
 く立ち直らんとし徒手空拳、よく外貨を  
 獲得するに投入資本を少く回収の大き  
 い輸出品に目を付け、一時は減少の一途  
 を辿つて居つた当該産業に全力を注ぎ始  
 めました。即ち生産費の低下を眼目とし  
 て不屈の努力を致した結果が、自動操糸  
 機の發明となり、業界に一革新期をもた  
 らしたのであります。ところがこの新鋭  
 の機械も原料高との相関を係がままなら  
 ず、機械が行きすぎた原料がつかないこ  
 ういふを充分なる効果を發揮し得ないウ  
 ラミはあります。また、現今のオート  
 トマトンヨー時代にならざるやうに入  
 づかいます。

現在吾々が飼育する多量系品種と称  
 する蚕種はすべて以上の意図より育成さ  
 れ固定されたものでありまして、未歩の  
 点でも昔の二倍近い糸量を持つ非常と進  
 んだものであります。然し一面人為的に  
 適任因子を無理やりに変戻固定させた結  
 果、弱体蚕のソシリは免れず、飼育に多  
 大の欠陥を有す事となつてしまひました。  
 先般の世界絹糸業大会の席上でも問題  
 となつたラウジネスの件も此の生理的に  
 必要以上に肥大せる絹糸線の一セリシと  
 と「アイスロイ」の無境界的現象に原因が  
 けられようです。  
 アラジルも勿論世界の動きに同調して  
 たとい国内消費の保護温床的存在とはい  
 え、立ちおくれれば、どうにもなりません  
 らで、この趨勢に近づくつのであるのです。

SAPATARIA HAYAKAWA

ペンギン嬢ものがたり  
 アレハオントイウモノニアルカ?  
 くつでございます  
 ナンニツカリモノニアルカ  
 はい、その、あれにはさますので  
 デワ、ペンギンモ、ハッコトニシヨウ



南極特報

早川

が養蚕智識の普及と頑迷固陋な先入観が  
 わざわいして仲々好結果を上げ得ないこ  
 とは非常に残念に思ひます。  
 すべて進歩途達は今迄の既成智識を一  
 応全的に否定して「無」にかえる、云い  
 かえれば白紙より考え直さねばなりません  
 ます。私の手許にある近着の香港よりの  
 伝達によれば、南京大学の劉教授他二名  
 は番見を養蚕にて飼育する段階を越え、  
 一九五四年度より高菴(45)で養蚕の業  
 を利用し、初歩の成功を得て居ると報じて  
 居ります。勿論竹のカーテンの彼方の業  
 一概に肯定し得ないとはいへ、上海高  
 品検査局の鑑定結果に六A格の平均成績  
 を発表して居る事實に鑑み、一応考えさ  
 せられる問題を多分に含んで居りまして  
 此の予そ蚕の研究成果も時代の進展に伴  
 う一現象と考えて決して黙殺し得ない事  
 と存じます。

私は敢えてルイビンゴ学説的政治性一  
 遍創の空虚さからアラジル向きと地は極論  
 いたしませんが、學術本質論に裏書きは  
 北の正道が、余りにも無視され易い奴隷  
 制度の依存的企業の実態に喜劇の一齣を  
 演あるが故に駄文を果述し、ステナント  
 の本道に喚び度く同調の世人に物申す次  
 第でございます。(一九五七年二月五記)

Acloparia Takata

新 学 期

学生用 カネツタ

五十本限り 特 賣

大割引でさし上げます

ホント天 ロードピリア前

高田時計店

PARKER



乙彦隨筆集

第三話

トラ談義

浦島乙彦

「三人市虎を成す」と支那の戦国誌にある言葉だが、意味は無根の説も、これを話す者が多ければ遂に人の信ずる処となる。と言ふ事らしい。終戦直後流布された怪話の二ユー・スなごも、口伝えに広か、て大部分の人々が此れを盲信したの故、未だ此種怪話に生々しくある。迷信と言われるルイも、それを信じてる者が多ければ多い程眞実性を帯びて来る。

人の噂は存しなどは、言う方も聞く方も面白く、煽情的な程興味を持たれるので、つい意識して大きくしがちである。改革にも此れを利用する手がある。商果に用いないわけはない。映画界では宣伝のための本筋としている。最初の放った当人は猫のつむりの風評も耳にわたり、口を出る毎に遂には虎に変わりかぬない、しかも此の虎、決して放った当人を痛つけることは無い。組合とかがその他の公共団体の理事者や高級従業員には特に金銭的な風評が虎の牙となつて威嚇する、普遍的な面では女の艶話、

スキメンタルがある。いづれも何人かの耳を経、口を経て猫が虎に変わったものが多し。この虎に痛のつけられ、意気沮喪する者、毒喰はばと居直る者と、その人の策は生れようが、如何にもバストスには此の態のトラが多すぎる様だ。開植當時の昔は、北ア・イバトとか、ルア・イバトとか、奥山の様に呼ばれていたら、今は、ルア・スレンシネンテ、スアルガスト、カアテ、トルネバト、ロスとかに変わった。バスターは虎の安住する場処ではない。若だ、元々と都會人らしい文化人らしい生活と話題を提供しないものを。(了)

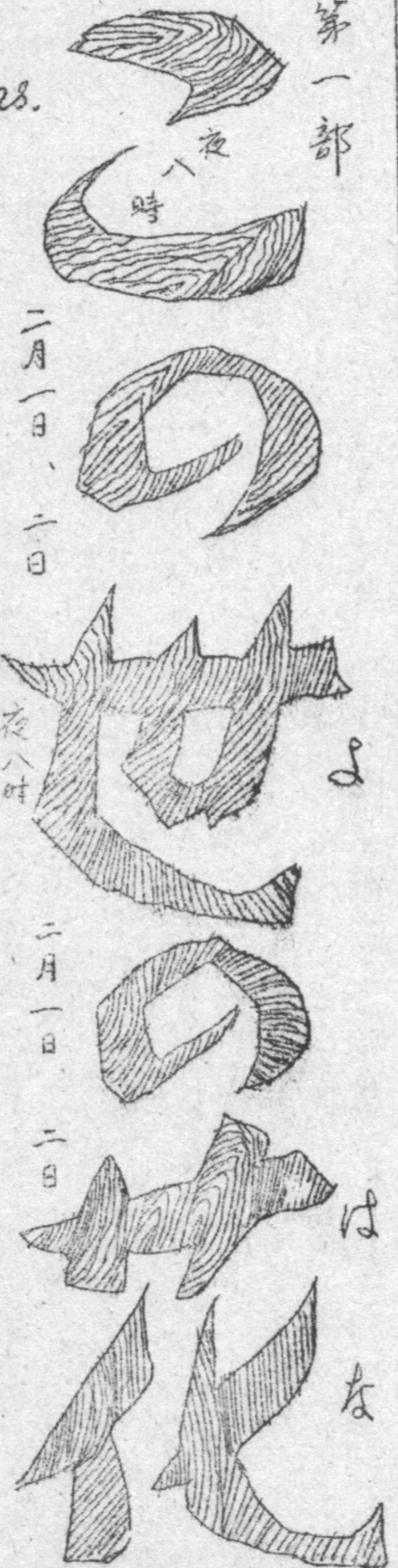
今年から、この仕事をはじめました。

カミニオン・トモウエの

確実、親切な

西 徴 事務所

第一部



二月一日、二日  
二月一日、二日  
二月一日、二日

映画にラジオに小説に全国熱狂の大ロマン！ シヤーマヒーワア  
美しい令嬢をめぐって、学窓を共にする二青年の対立！ 黄金を追う実業家！ 逆境に生きる母娘！ 現代社会の激しい変転の中に多様な群像が織りなす激情の三部大作！

○皆さま、この現代悲劇を、ごらんになりましたか、もしご自分の身近に、このような問題が起りましたら、どのような処置をなさいますでしょうか？ 考えさせられる物語りです

Chama Viva a Época  
Realizará dia 1 e 2 as 20 horas.  
Cine Bandeirantes

アヒーズ 二月 27日 28日  
急告  
十フルゼーロ 均一





老 輔 紙 上 表 彰

浦 島 乙 考

市街地は密林に囲まれ、経の両側に林立して、二ツキノとトツコが林立していた。その人な頃のバストスに店を開いた前原その他の古いノレンの店が次々と閉店し、街の顔とも言う可き商店は大方新顔に入れ替わってしまった。

二十年以上継続してきているのは私の知る限りでは、高田時計店、佐々木製菓、植木商店、本田パール、エンリッテ、バレー、リ、木氏の商業事務所、五軒位ではないかと思ふ。個人々々の事情も都合があつたの事として、二十余年一芸を守り通して、バストスに根をおろしてやつて来たと言ふ事は、平良な操や平良とはいひ難い。

高田君は特殊な技術を売り物とする専門店であり、田舎師としては文化的な日本人の集団地、此処には欠くことのできない商賈である。あつては困り、開いては又しめる同業者の動向に一顧もくれない。二十余年を此の道一筋に徹して来たのは見掛けによらず、強い背骨の持ち主であるらしい。年一二度は保養を兼ねて湯治や旅行を楽しむ悠々たる人生を送つてゐるのも羨ましい次第であるが、その長い年月の努力を思へば、故なしとしない。

薬局の佐々木氏はバストス病院勤務中に検定試験を受けて見事に合格、その頃はサンパウロ州方でも数少かつた。薬料士の資格を得、長い間の経験に物をいわしめて、随分儲けもした。人も助けに来、進歩は余力を牧場経営に注いでいるが、下手な医者にかかるとは、ササキといふ言われ程の信頼を集めてゐる。帰化して市議に行つて出、市会議長をも勤めた事は、周知の通り。

植木さんはバストス産組を出た開店、セツコスエモリヤードスを今日迄つた押しにやつて来ている。経済的に相当恵まれてゐると言われるが、一々い派手な装いで、順実な定めた顧客を捉え、確実な商売を続けてゐる。儲ける事は商人の主眼とする處ではあるが、氏の隠れたる徳行は、激しい同業者間のコンプレシアの波を、しりぞけて、動かぬ地盤を築つてゐる。

終戦後の母国慰問小包や送金、今も是骨折りは戦勝を称える方面から、目に見えぬ在連の臭い中かあつた。たけに、より高く評価されるべきで、今となつては、其の縁であるが、父や子供にかくれて、母國への送金を依頼する主婦や、反対に親に内緒で慰問小包を日本の親類に托す青年が、植木さんの人柄を信頼して、こつそりと

Resolução No 1/91 | 1/1954  
Ata no 1/54

A mesa da Câmara Municipal de Baitos. Faz saber que a Câmara Resolve

As Comissões Perm anentes da Câmara Municipal de Baitos, foram est un comissão das:

Comissão de Justiça, Legislação e Redação:

Presidente Atsushi Tamiguchi  
Presidente Mitsui Nobuo  
Presidente Augusto Tomiyasu

Comissão de Finanças e Orçamentos  
Presidente Mamoru Takeda

Presidente Wilson Felsenon B. Madua  
Presidente Luciano Michelon

Comissão de Higiene, Esportes, Assistência Social e Recursos Públicos  
Presidente Glenn Galles  
Presidente Mizuki Ikeda  
Presidente Paulo Takami

As Comissões Permanentes entram em exercício nesta data.

Cada Comissão terá um Presidente eleito entre seus membros de acordo com o Regimento Interno.

Câmara Municipal de Baitos, 21 de Janeiro de 1954.

Presidente da Câmara Municipal  
a) Tetsuya Nishi

O Secretário de Câmara Municipal  
a) Hisayuki Kobayashi

一九五四年度  
バストス市会 決議 第一号

バストス市会、各委員会、た、如、互選ス

○司法委員会  
谷 口 萬 市議  
アルワール 北下口  
アウグスト エンリッテ

○財務委員  
木郎司 衛 市議  
ウイロン スラガ  
ルシアノ ミタロン

○衛生、文化、土木委員  
オラーホ サールス 市議

次頁下段  
ハツツク



裏口をくぐったものである。今日此の頃でも植木さんの店のバルコニには受取人不明の手紙箱が備えられていた。これはコレイオウカイシヤをもちたない人々宛のや転居したり宛名を違えたリしたものであるが、こゝな一文にもなぬ事にも気を配って奉仕してゐるわけである。必ずしも社会的には表面に立たなくとも、人のために尽す術もあり、又それ相成に誠を享けるものであることと植木さんの場合によく証明されてゐる。本田バールは恐らく最初にバラストスにイルベウヲを入れた人ではないかと思つてゐる。シヨツクもそうだろう。螢光灯をかけたのも入り一息早かつた。いつても何かしら新しいものを追っかけ取り入れる進歩的な親父さんである。店に友人が来て、バナナ、南瓜、蜂蜜、ボンボン、花苗、など今後はシヤカラの経営に腐心してゐる様であるが、この面でもすぐれた才能を發揮して、店やの親父の土いかりと罵つてゐた人々を咄然とさせてゐる。エンリッケ商業事務所と言つても余り馴染みない名と思われれるが、西の事務所と浦の事務所とが併はれてゐる商業事務所の事だ。二十余年來、レッキとしたドノロエンリッケ、ベレクリ不氏である。前京田中を初め、日本とが吉備商會などの皆の店も皆エンリッケ氏の世話になつてきて居る。伯人とはいへ、バラストスの又シ的存在であり、その氣になりさえすれば赤手の手を捻る程たやすく日本人を喰物にできる立場にあり乍ら、実に真面目にスラジルの法的事情に暗い者の味方となつて面倒を見て来たものである。幾人かの過去を顧るとわかると思ふ。幾人かの伯人が地位を利用して、立場を利用して、いかにバラストスの日本人を苦しめてきたことか。利用しつゝ、口をぬぐつてバラストスを去つて行く。教え上げると十指を屈するに一分とはかからぬ。そんな伯人の中にあつて孤立無援、正しき者は守るべきかとの信條を以て今日に到つてゐる。ウガエンリッケ氏である。晩年のエンリッケ氏がホリチウコに破れ、家庭の不運に見舞われ、往年の覇氣を失つて、イトリアの練瓦工場とバラストスを往復して日を送つてゐる。めつたに事務所を去さないう様であるが、バラストス商業事務所に関する限り一切の責任を持ち又責任を感じてゐる由である。

以上五人の所謂バラストス商店街の最古考を述べて簡單な「横顔」をご紹介した。そして目につく事は冒頭に書いた通り、五人は五人共一芸に秀いで、その芸を通じ、事業を離れてかかれた奉仕を続け来た。友人々であると言ふことが、同じバラスト

池田 ミズホ 市議  
 座花味パウロ  
 二、各委員会 本日ヨリソノ職責ヲ負フ  
 モノトス  
 三、内規ニ從ヒ各委員会ハ委員長ヲ互選ス  
 バラストス市会  
 一九五七年一月廿一日  
 市会議長 西 徹  
 市会第一書記 小林 平行

の古い任人として、この拙い一文を書き終るにあつて、何か心あたを左なる思いがする。それは五人の一人が今はそれをれに扱われ、その日の生活を、たのしんで居られること、古臭い言葉であるが、善因善果といふことだ。唯エンリッケ氏一人の不遇な半生だといわれるかも知れないが、ホリチウコに破れたといへ、その幕下から、かつての市會議長パウロのキミを出し、今又トホルニシを立たせてゐる。家庭も今は新しい平和を取戻してゐるとのことである。  
 堀内 蘭村  
 〇日向はこいづしハ終る満腹し

バラストス婦人會新發足

去る一月廿日新華茶話會当日、新役員を選挙したが、いよいよ二月十七日一同結東して新發足することとを申合せた。婦人會は親睦を目標とする会ではあるが、多少仕事もせねばといふ意見もあり、三月以降毎月の行事をほゞ定まつた相がある。三月はドレセ研究会、五月は母の日、福引會、古着の展示會、(券付)七月は中央区と組んで運動會、九月は料理研究會、その外沢山あつたがききもらした。その中の一番大物は、まだ発表してはいかんと注意された程だが婦人會でなくてはできない、公共的な大事業もふくまれて居る由である。因に本年の新役員は、  
 會長 谷口秋子さん 杉山みづさん  
 副 前田久子さん  
 會計 前田さん(兼) 漢 砂子さん  
 書記 山本和枝さん  
 幹事(カンジ) 石橋と一子、細江静子、栢野益子、八重樫正子、前山つる、上西さみ子、藤原ひさ、重道千代子、梶山米子、の皆さん  
 尚、前々會長畑中レウ女史を、顧問に推戴することを満場一致で可決した  
 フレック フジンカイ!



サンジョセ中学父兄會開催

おしらせ

来る三月三日(日)午後一時  
バストス産業會館に於て

月謝値上げ、その他重要な御相談が  
ありますから、父兄の方々は御繰合  
せの上ぜひ御出席下さい

もし御いで無く、当日の決議事項  
などに後日、かれこれ申されまし  
ては困りますから、念のため申上  
げておきます

サンジョセ中学

父兄會

父元各位

PAGUE  
REGISTRO APARELHO  
RECEPTOR DE RADIO-  
DIFUSÃO  
ATE' 31 DE MARÇO - 1957  
COREIO BASTOS

ラジオ  
人におしらせ

聴取料金十クルセーロ  
一九五七年度

三月中におさめて下さい  
バストス郵便局

御礼

織田しづ子

去る一月上旬白内障手術の爲め上聖  
の際、皆様から多大の御見舞をいた  
だき、まことに相すまぬことござ  
いました、ありがたく御礼申上げま  
す。手術は裏田真下面先生御立会  
の上、アントニオ・レウリ方病院にてド  
フランシスコ氏執刀されました。お  
かげで失明を免れました。まだ全快し  
たわけではございませぬが、追々快  
方に向って居ります。御見舞を頂い  
た方、到底御返礼できかねますので  
勝手ながら御恕と願ひ申上げます

順序不同

- |       |         |         |
|-------|---------|---------|
| 吹本蕭子様 | 渡部チエ様   | 宮武勝南様   |
| 松川周昭様 | 角南様     | 江原真之様   |
| 栢野益子様 | 石橋と子様   | 霜出静二様   |
| 渡部信男様 | 橋本道太様   | 上村様     |
| 佐藤様   | 橋元二様    | 佐々木西雪様  |
| 加藤梅景様 | 新津牛丸様   | 原田豊三郎様  |
| 本田正子様 | 梶山茂平様   | 丸山様     |
| 中原寅一様 | 谷口秋子様   | 前田久子様   |
| 奥田耕様  | 篠崎丈人様   | 岩崎孝七人様  |
| 婦人 会様 | 古沢市次様   | 原田実様    |
| 中島幸子様 | サハテン御両様 | (赤百ニタン) |

特製漬物桶

か到着いたしました

大丸大和西瓜二吉種

昨年大好評の西瓜種と同様のもの  
がつかまりました。売場北とならぬう  
ち御申込み下さい

日本製噴撒機

アリコロシニ、モットモ、コウヒヨウ  
アル、フンサンキデス。コレニB・H  
C・ノコチ、イレテ、サウバノアナニ  
フキユムト、スバラシク、ヨクキキマス。

Casa Colonia U  
NEXAN  
殺蟻用水溶液、ドイツ直輸入品です  
アデマール・バローヌ街  
重道商店  
PHONE 二十セバン

お彼岸會執行

日本では三月十八日 彼岸入り  
三月廿一日 春分の日(彼岸カお中日)  
三月廿四日 明け、といって、この寺  
も盛大にヒガンエをいたします  
マツヤマ  
当寺では八十山師の行脚日程の都合  
により、少し早目ですが

来る三月十三日の晩(八時)

お彼岸會をいたします  
場所 は おなじみの梵真寺

讀經

法要

御話

がございますゆえ、御信心の方々  
は、どうぞ御誘い合はせ御参り下さい

バストス

梵真寺

世話人



山本和枝様 藤系八重子様 海野又八様  
 パラス枝丈様 阪東敬三様 浦島樹様  
 鷹塚丈人様 戸田礼子様 西きよ子様  
 聖子藤木光見様 畑中レウ様 聖市渡部少次様  
 渡砂子様 堀山米子様 古田夫人様  
 聖市高柳甚喜様 高柳清子様 高柳源様  
 中沢佳様 肥後源彦様 奥田きよ子様  
 大崎丈人様 学島一也様 島田重利様  
 書きまわしがありませんたつ作ゆること

御礼  
 一金式ゴントス也 池田近様御進ま御使々々、為ノ  
 御奇贈有りかとう存じます  
 イカレージヤ建築委員 太郎田会計

池田 山敬様

信用 信用第一

Nossa Reloaria  
 AV. TAMOIOS 785 TUPA



ツパン布タモヨ街セハ五  
 ノッサ時計店

あなたはどれに  
 なさいますか?

- 0 シンガーミシンのフレスタン
- 1 現金で寸と一〇、八〇〇、〇〇
- 2 三回拂  
 入金二、四六六、五〇  
 毎月二、五〇〇、〇〇宛三回  
 合計一〇、九六六、五〇となりす
- 3 十回拂  
 入金二、四三〇、〇〇  
 毎月九〇〇、〇〇宛十回  
 計一、四三〇、〇〇となりす
- 4 十五回<sup>カイ</sup>拂  
 入金二、三二〇、〇〇  
 毎月六五〇、〇〇宛十五回  
 計一、二〇七、〇〇となりす
- 5 二十二回拂  
 入金一、七〇〇、〇〇  
 毎月五〇〇、〇〇宛廿二回  
 計一、二七〇、〇〇となりす



シンガーミシン 付属品ベッサ  
 全部とりそろえてあります  
 ミシンの御買求めは

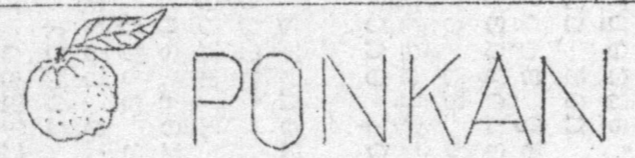
老輔  
 太郎田屋 (FO NE 16)  
 御来店ください

バストス短歌会 (二月十日)  
 席題「雨期」「葉蔭」

昨日つみれ菊の陽芽は幾日も  
 降りつぐ雨の色おとろへず  
 点燈の事も時日は思ひ見ぬ  
 ゴムの葉蔭と夕餉する宵  
 移転準備と心せわしくゐたる間に  
 葉蔭のかりア紅に咲く  
 雨の日は休むことなし窓蜂は  
 椰子の葉蔭の花に群れつづ  
 乳母車園の葉蔭に止の置きて  
 倒のベンケに縮む若き母  
 桑の木葉蔭に半は腐れたる  
 空鑽ありて雨期は長しも  
 蟬一りユウカリ葉蔭にひそみぬて  
 暑さの落ちし夕昏に啼く

山本一男  
 山本和枝  
 森重枝美  
 渡部千工  
 吹本菊子  
 重道十代子  
 浅田孤舟

アンドウ・センヤチ著  
 フラジール史  
 好評！ 大好評！  
 月刊「エスポランサ」二世の男女青年は日本  
 語を習得せられたため、漢字廃止と提  
 唱する運動、かな書き運動  
 年、百クルセ占  
 取次所 バストス道報社



今年から聖市中央會が  
 水シカンの  
 販賣に  
 力を入れて下さることに  
 なりました。  
 有利に、親坊に取扱いますから  
 御利用下さい  
 輸送用木箱の用意ができた  
 ました。

Coop. Agri de Bastos  
 名物バストスの  
 水シカン  
 信用を落さぬ様、良品を選ん  
 出荷しましたよう  
 詳細は係員  
 招本久雄に  
 中たづね下さい  
 バストス産業組合  
 組合員各位



Fez-se de noite de repente, já não vi mais arvôres de ouro. Voltei os olhos para Vitalis. Ele proprio olhou para mim, e a palidez do meu rosto, o tremor dos meus labios disseram-lhe o que se passava em mim.

- Eis-te inquieto, disse ele, e tambem aflito, estou convencido. Separar-nos! disse eu por fim, depois de ter passado o primeiro momento de surpresa.

- Pobre pequerito!

Esta palavra, e principalmente o tom em que foi pronunciada fizeram subir as lagrimas aos olhos: havia já tanto tempo que eu não ouvira uma palavra de simpatia!

Ah! o senhor é bom, exclamei eu.

- Tu é que és bom, meu rapaz, um ottimo coraçãozinho. Vês tu: ha momentos na vida em que se está disposto a reconhecer estas coisas e a deixar-se a gente eternecer. Quando tudo corre bem surge cada um o seu caminho sem pensar muito nos que o acompanham, mas quando tudo corre mal, quando a gente se sente num mau caminho, sobretudo quando se é velho, isto é sem fé no dia seguinte, temos necessidades de nos emparar áquelles que nos rodeiam e somos felizes em os vêr a nosso lado. Parece-te exquisito, não é verdade, que me faça emparar por ti? E todavia é assim mesmo. E não preciso mais do que ver-te assim com os olhos humidos enquanto me estás ouvindo, para se sentir consolado. Porque eu, meu Re-niçozinho tambem tenho muito desgosto.

Foi só mais tarde, quando amei alguém, que senti e experimentei a verdade destas palavras.

- O pior, continuou Vitalis, é que tenhamos sempre de nos separar exactamente na occasiao em que mais desejariamos estar juntos.

- Mas, disse eu timidamente, não me quer abandonar em Paris?

- Não de certo; não te quero abandonar, lembra-te bem disso. Foi dia em que te nao quis confiar aos cuidados daquela boa senhora que se queria encarregar de ti e educar-te como seu filho, contrai a obrigação de te educar eu proprio o melhor que pudesse. Por infelicidade as circumstancias são-me contrarias. Não posso fazer nada por ti resta occasiao e aí está porque penso em separarmo-nos, não para sempre, mas por alguns meses, afin de podermos viver cada um do nosso lado durante os ultimos meses da estação má. Vamos chegar a Paris daqui a poucas horas. O que queres tu que nos façamos com uma companhia reduzida unicamente a "Capi"?

Ouvindo pronunciar o seu nome, o cão veio collocar-se diante de nós e, tendo levado a mão á orelha para fazer continencia, pô-la sobre a cabeça. Ta situação em que nos achavamos, isto não nos sossejou e comoção.

Vitalis parou um instante para lhe fazer uma festa na cabeça.

- Tambem tu, disse ele, és um bom cão; mas ah! no mundo não se vive de bondade; é necessaria para a felicidade dos que nos rodeiam, mas é tambem necessaria outra coisa, e isto não temos nós. Que havemos de fazer só com "Capi"? Compreendes bem, não é assim, que já não poderemos agora dar representações.

- Isso e verdade.

- Os garotos escarnecer-nos-iam, deitar-nos-iam carochos de mãos e não faríamos vinte soldos de receita por dia; queres que vivamos toños três com vinte soldos que nos dias de chuva, de neve ou de grande frio se reduzirão a coisa nenhuma?

E a minha harpa?

- Se eu tivesse dois rapazes como tu, talvez ainda passasse, mas um velho como eu com uma criança da tua idade é um mau negocio. Não sou ainda bastante velho. Se fosse mais dobrado, ou então se fosse cego... as por desgraça, sou o que sou, isto é, não estou em situação de inspirar dó, e em Paris para atrair a compaixão das pessoas apressadas que vão para os seus negocios é preciso estar-se num estado bem lamentavel. E ainda é necessario não ter vergonha de apelar para a caridade publica, e isso não o poderia eu nunca fazer; eis pois do que me lembrei e o que resolvi. Dar-te-ei até ao fim do inverno e um "padrone" que te alistará com outros pequenos para tocar harpa.

Quando falei na minha harpa, não era em semelhante conclusão que tinha pensado. Vitalis não me deu tempo de interromper.

- Pela minha parte, continuou ele, darei licença de harpa, de "pira" e de rebeça ás crianças italianas que trabalham pelas ruas. Sou conhecido em Paris, onde tenho estado por diversas vezes e de onde vinha quando cheguei a tua aldeia.

(continua).--